

寺子屋だより

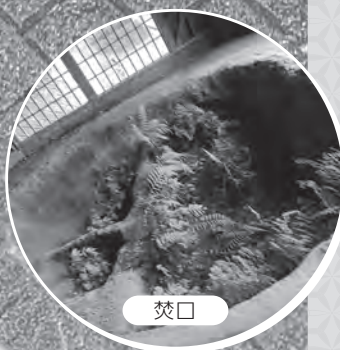
※題字／森川芳聲

もくじ

- 2 巻頭言「新紙幣」……………山口 秀範
- 3 教育雑感⑪……………白濱 裕
- 4 偉人レポート……………山口 紗世
- 6 橋を架ける⑧……………占部 賢志
- 8 神功皇后の願いを叶えた「叶ヶ嶽」…水崎 之子
- 9 鳥飼八幡宮―ゆかりの名士たち(第五回)
神功皇后さま②……………山内 圭司
- 10 TERA KOYAふおとればーと
- 11 “あちこちde寺子屋”のご案内
- 12 碑のこころ(12) 編集余録



登り窠



焚口

碑のこころ 県指定文化財 菜園場窠跡

小倉北区菜園二丁目

※詳しく解説は12頁に掲載しております。

「新紙幣」

代表世話役

山口 秀範

千円札の顔

二十年ぶりにお札の顔が交代します。それに因み「志明館」の寺子屋授業で、新旧千円札の顔——野口英世と北里柴三郎——を紹介しました。1・2年生共に偉人二人の名を知る子は残念ながらおりませんでしたが、病原菌の発見と治療に一生を捧げた医学者という共通点もあり、こんな偉い人がお札になるんだということには心動かされたようです。

但し七八歳には長い時間の観念はなく、百年前に亡くなった人という実感は持てないのですが、一方偉人の遺した言葉にはいつも敏感に反応します。

「忍耐は辛し、されどその実は甘し」(野口英世)、「君、人に熱と誠さえあれば何事でも達成するよ」(北里柴三郎)を大声で唱和しつつ、「忍耐」、「熱」、「誠」を彼らの生活体験にも踏み込みつつ理解を促しますが、電気やガスのない暮らし、外国へ一ヶ月かけて船で行くことや、英世の家の極貧ぶりも想像すら出来ません。それでも時には我慢すること(忍耐)で、それまで苦手だったことが出来るようになると理解したり、好きなことをやり続けるワクワク感(情熱)と周りの友達への思い遣りを持って(誠)一緒に楽しむことが出来るのは日頃の外遊びで経験済みです。

通貨発行と国の威信

子供たちは意外に保守的な面を持っており、紙幣が代わると聞くと今流通している千円札に愛着を覚えるようです。「旧いお札が無くなるのは嫌だ」と言うので、「新しくなっても今までのお札もずっと使えるよ」と説明すると少し安心します。

遭遇しました。

ナイジェリアの通貨ナイラの紙幣は手垢まみれで異臭を放ち、出来れば触りたくないという代物です。勤務した1980年当時、建設労働者の殆どは銀行口座など持たず、毎月の給料日には経理事務所を厳重警備しスタッフの徹夜作業で八百人分を袋詰めしました。

三年半後、任務完了して出国間もない頃に、ナイジェリア政府が紙幣の一新を発表したとの記事を英国の新聞で見かけました。後日、まだ同国に残っていた元同僚から聞いたところによると、政府は全ての新紙幣を発行し終わると突然国境を閉鎖した上で、期限を定めて旧紙幣との交換を実施し、その翌月を以て旧紙幣の無効宣言を発しました。

上記建設労働者のうち給与の高い監督職や技能工の多くは、近隣のガーナなどからの出稼ぎでした。周辺国に比して安定しているナイラには人気が集まり、彼らもタンス預金として保有していたのです。それが一夜のうちに紙屑と帰ってしまうのだから、随分乱暴な国家運営です。

聖徳太子をかつての一万円札の顔として馴染んでいる生徒たちに、「聖徳太子のお札だって今もお金として使えるよ」と安心させ、日本の国の信用はそんな所からも世界に認められていると伝えました。

お札の顔の真価

七月の寺子屋(偉人伝)授業は一学期で習った偉人の復習です。校歌に登場する聖徳太子・吉田松陰・千利休・蒙古襲来を阻止した武士たちに加えて二宮

金次郎と今回の二人、合計七人に出会った訳で、やがて生徒それぞれが「肖りたい偉人」を胸中に抱くことを期待しています。

二期には五千円札、一万円札の顔新旧を学ぶと予告すると、今から楽しみにしているようです。二十年に一度の国家事業を利用しながら人物を通して我が国の歴史を振り返るといふ絶好の学びの機会を、なぜどの学校もむざむざと逃してしまおうのでしょうか。とにかく教科書に沿って授業するという公立の教育を抜本的に変革しない限り、子供の心を豊かにする「脱線」は望めないでしょう。

授業の準備に当たって紙幣の変遷を辿ってみると、改めて聖徳太子の存在感の大きさを再認識します。他の人物は確かにある時代のある分野をリードした偉人には違いないのですが、日本という国の運命を一身に担ったという存在は太子を置いて見出し難いのではないでしょう。

大陸からの新文明が滔々と流入する中で、日本人本来の国民性を失うことなく東洋文明との融合を図り、「十七条憲法」に民族の指針を示した偉業を再認識するためにも、やがて二万円札或いは5万円札の顔として再登場を切望します。

その聖徳太子に比肩する方ありとせば、唯一明治天皇を挙げることが出来ましょう。時代は千年余隔たりますが、外来文明——今回は西洋文明——奔流の中で独立を堅持して近代化を遂げた明治という時代の指導的人格として、世界に誇るべき偉人は何と云っても明治天皇でしょう。

将来いつか、聖徳太子と明治天皇を頂点に各界各時代の偉人たちが登場する新紙幣が発表される時こそ、日本人が自らの歴史と民族性を再自覚して世界への貢献を二層高める時代の幕開けとなるでしょう。その日まで、先ずは子供たちに偉人の魅力を語り続けて行かねばなりません。